Editor's View
エディターズ ビュー

永廣信治[1)] Shinji NAGAHIRO
1）徳島大学脳神経外科
〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15

今月号と 2015 年を振り返って

今月号の「Special Interview」には，大分の永冨裕文先生が登場されました．永冨先生が大分県立病院から民間脳神経外科病院を開業された時期に，私は永冨先生の部下として大分県立病院脳神経外科に勤務していましたので，大変懐かしく感じました．文中にもありましたが，当時の大分県立病院脳神経外科は県内唯一の総合病院の脳神経外科施設として多数の救急患者を受け入れ，手術も多く，戦場のように忙しかったことが思い出されます．小生はまだ卒後３～４年目の若造であったにもかかわらず，永冨先生の病院にも何度か手術のお手伝いに行って大きな顔（？）をしていました．

永冨先生のご祖父が九州大学脳神経外科において三宅 速先生の医局員であったと知ってまた驚きました．三宅 速先生は，日本で最初に脳腫瘍の手術を行った徳島県出身の外科医であり，ノーベル物理学賞を受賞したアルベルト・アインシュタインと親交があったことで有名です．詳しくは，『脳神経外科ジャーナル』の「温故創新」に書いた拙文を参照ください（脳外誌 vol.24 no.3 189-91, 2015）．

ノーベル賞と言えば，今年も日本人がノーベル賞を受賞しました．医学・生理学賞に北里大学特別栄誉教授の大村 智氏，物理学賞に東京大学宇宙線研究所教授の梶田隆章氏と，昨年の３名受賞に続く快挙です．報道からは，お２人の基礎および応用研究に対する真摯で粘り強い努力と誠実な人柄が偲ばれ，日本人の心と科学技術や研究能力の高さに誇りを感じました．最近，TPP 締結が話題になりましたが，車にしても農業にしても，日本のモノづくりの高い品質は世界に貢献していくものと信じます．

また体力面，スポーツ面でも驚かせたのは，ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍です．五郎丸歩選手のゴールキック前のルーチンポーズによる精神統一，心技体も日本人の心に好ましく印象深く残りました．国家の安全保障問題も重要ではありますが，日本は科学技術や学問，文化，スポーツなどの分野で大いに活躍してほしいと思います．

手術用顕微鏡も各社の努力で術者に優しく解像度が高いものになってきていますが，顕微鏡の特性を知って有効かつ適切に使用することが大事である点について，「脳外科顕微鏡の比較と使いこなすためのコツ（第二報）」（鎌田恭輔先生）として述べられており，参考になります．「高度石灰化病変の頚動脈内膜剥離術（CEA）」（和田孝次郎先生）と「病変部の通過に工夫を要した内頚動脈狭窄症の１例」（寺田友昭先生）は，CEA と頚動脈ステント（CAS）の選択を迫られる時代にあって，困難なケースにおいていかに巧みに技術を駆使し克服するかのヒントになります．また「小児頭部外傷の CT 適応 ―主に PECARN 基準について―」（荒木 尚先生），低髄液圧症候群（前田 剛先生）

© 2015- MEDICUS SHUPPAN,Publishers Co., Ltd.All Rights Reserved

や「中枢神経疾患の画像診断」（山本伸昭先生）も，「専門医に求められる最新の知識」の２編や覚醒下手術のガイドライン（田村 学先生），投稿論文のRCVS（小林慎弥先生）とともに大変勉強になりました．

救急，診療，手術，研究，教育，専門医試験勉強，執筆，学会活動などといろいろ多忙な脳神経外科医人生ではありますが，日ごろの心技体のバランスを保つためには趣味や遊びも必要です．「Monthly View」の橋本直哉教授の軽音楽への思いや，「休日向上計画」の「The NISEKO Classic ～オープン・サイクル・レース～」（佐藤 透先生）のユーモアたっぷりの紀行文を参考にしながら，読者の皆様もどうぞ楽しく豊かな脳神経外科医人生をお送りください．END

© 2015- MEDICUS SHUPPAN,Publishers Co., Ltd.All Rights Reserved